

特別教育支援部会

**令和元年度
1 月例会報告**



ブロック名	月例会	参加人数	会場
A-1	1月	27人	千葉市立畑小学校

内 容 : げんきキャンプ実施内容報告

会 場 : 千葉市立畑小学校

げんきキャンプの日程や取り組んだ活動内容、おすすめの活動について、各グループで情報交換を行った。

<野外炊飯>

ピザ、ナン、カレーうどん作りは、準備をしっかり行えば子どもが主体的に楽しく取り組むことができ、おすすめ。反対に、焼きそば、お好み焼き作りは、子どもが火を怖がったり、焼く枚数が多く時間がかかったりするため難しい。竹を持参し、流しそうめんを行った学校もあった。

<工作>

「いつでもカレンダー」、「くぎうちトントン」、「小枝のマイスプーン」など。

<雨天時>

「ダンス・カラオケ大会」は子どもに人気。DVD鑑賞会も良い。

<プログラム>

「ポケモンGO」(ナイトハンク)、「夏祭り」(キャンドルサービス)、「犯人をさがせ(名探偵コナン風)」(ナイトハンク)など。

<その他>

- ・宿泊日数→2泊3日は、親と子どもが丸一日離れる時間ができる。また、時間をたっぷり使ってプログラムに取り組める。
- ・他校と合同のプログラムにおけるルール→水遊びなど、子どもが夢中になるプログラムは、教員間でルールをしっかり共通理解しておかないと、トラブルが起きる可能性がある。
- ・同じパターンのプログラム→毎年の成長を見られる。
- ・教師がどのような意図をもって、げんきキャンプを利用するかが大切。キャンプでできなかったことを、来年度のげんきキャンプまでの課題としてどのように成長させるか。
- ・げんき交流会やげんきキャンプは、公共交通機関を利用した移動能力、お金の支払い能力、世の中のルールを学ぶ機会として活かすと良い。

<自然の家以外で利用した施設>

カンドゥー、アクアリンクちば、青葉の森、中央博物館、茂原交通公園(萩原公園)、昭和の森、道の駅、ボーリング、エアロビクスセンターなど。

資料をご用意いただいた先生方、ご協力ありがとうございました。

ブロック名	月例会	参加人数	会場
A-2	1月例会	35人	千葉市立新宿小学校

【教材・教具と教育課程紹介】

《国語》お話を読み、続きを想像して文章を書けるようになる。

話が繰り返しのため、児童が参考にしながら書くことができた。登場人物も少なく、簡単な絵で、わかりやすい内容のものを選んだことで、容易に想像が付きやすく、児童はスラスラ取り組むことができた。



《算数》3000までの数について、よんだり書いたりできる。

☆100、1000のまとまりシート

数の大きさを10、100などを単位として1000より大きい数を捉えられるようにするため、数のまとまりシートを用意する。

☆千円札シート

百円玉が10個で千円札一枚と同じということを定着させるため、千円札に近い大きさの板に百円玉を10個はめると千円札に変わる教具を用意する。千円札シートを繰り返し操作することで、百円玉10個と千円札一枚は同じ価値であるということを理解できるようにした。



《算数》長さの学習

算数のグループ学習で長さの学習に取り組んだ。引っ張って抜くツルの長さで「長い、短い」を体感した。教師のツルや友達のツルと長さ比べもした。

《音楽》笛星人

音楽の合奏用教科書として一人一冊購入して取り組んでいる。教科書に記載されている曲だとリコーダーの指使いが厳しくなってしまう子にも無理なく取り組むことができた。別冊で伴奏譜やCDも購入できるので、専科の先生に弾いていただき全校の前で発表もした。



《生単》モリくんシリーズ

生単の導入や季節の話、授業の導入などで活用した。イラストもかわいくて、内容も読みやすくなって子どもたちも大好きな絵本のシリーズ。

多くの学校の教材・教具の紹介をしていただきました。教育課程に関しては、年間指導計画を資料にとじ込み、来年度の参考資料としました。ご協力ありがとうございました。

ブロック名	月例会	参加人数	会場
Bブロック	1月例会	32人	千葉市立加曽利中学校

○1年間のまとめ

- ・担当者より各例会の報告をする。

○教材紹介

- ・大宮中

定期テストの内容、連絡帳の形式、教科の教材として使用しているものを紹介した。

- ・市立養護学校

作業学習の記録用紙と連絡帳の形式を紹介した。

- ・こてはし台中

作業製品の紹介。手提げバッグ、パッケン、畑作物の作り方から頒布までの経過を知り得た。

- ・越智中

英語授業で、使っている手作り教材（ハンバーガーショップでの注文のやりとり際に使用）を紹介。

- ・花園中

連絡帳の形式を紹介した。

- ・山王中

ラミネーター製本の作り方を紹介した。しおりの表紙カバーに役立つ。

- ・さつきが丘中

認知強化のためのトレーニングの参考図書を紹介した。

- ・加曽利中

ビデオから写真を抽出する方法を紹介した。

○意見・感想

- ・日々の日記や記録の用紙について見直すことや授業、作業学習のアイデアを知ることができた。
- ・教材や参考図書など普段の授業で使いたいものがあつた。
- ・とても参考になったので、今後、教材のテーマを決めて紹介し合うのもいいのではないだろうか。
- ・各学校の資料を共有する場がほしい。

○次年度の要望

参加者から次年度に向けて、例会で取り上げて欲しい内容をアンケートにて聞きました。

- ・各学校で授業に使用している学習内容や形式を取り上げてほしい。
- ・自立活動の実践例を取り上げて欲しい。
- ・認知強化の講師を招いて講義を聴きたい。
- ・パラリンピック関係の方を招いて話を聞きたい。

ブロック名	月例会	参加人数	会場
Cブロック	1月	31人	松ヶ丘小学校

1 テーマに分かれての事例相談、話し合い

○発音

- ・促音化構音で定着が課題の子だが、内気で話をしたがない。音読は歪みなくできる。スピーチは気を付けて発音すれば正しく話すことができる。しかし会話は、本人が自由に話すことが苦手で練習以前の問題で指導に困っている。

⇒好きなテーマ（ポケモン）で自由会話し録音してみるのはいかがでしょうか。聞き直しをして自己修正させてみるのはいかがでしょうか。

- ・促音化構音と歯間化構音、特に左に引く癖が強い。自閉傾向がある。体全体のアンバランスがある。
⇒口と舌の体操だけでなく、体全体を使った体操を取り入れてはどうか。（感覚統合のためのトレーニング）
左右差がないかどうか視力の確認もしてみる。コミュニケーションに支障がないくらいに改善したら終了を視野にいれていいのでは。他の困り感にも目を向ける。
- ・歯間化構音の子で自覚がなく、なかなか改善しない。
⇒教師が大げさにまねをして本人に客観的に見せる。歯間化構音は本人が意識することがとても大事なので、意識できるように工夫することが必要。

○検査法

- ・WISCをとる子の相談が増えてきた。WISCⅢとWISCⅣの取り扱いについて。WISCⅣは我々でも検査をしていいのか、またⅢもⅣも保護者への説明ではどういう形で伝えているのか。他の通級教室（LDなど）はどうしているのか？

⇒WISCⅣは基本的には心理士が行う。（Ⅳの検査が必要な場合は養護教育センターだと無料だがすぐに検査できない。医療機関なら有料だが迅速である）WISCⅢは検査後1年あけないと2回目を受けられない。Ⅳは2年あけないと受けられないことから、Ⅳは安易に行うべきではない。他の通級教室とも足並みを揃えられるよう支援課に相談する。

○きこえ

- ・事例検討 ・ことばの教室との情報共有をどのようにすればいいか ・聴覚認知バランサーの紹介
- ・理解授業でのパソコンの活用について
- ・期間限定の通級を保護者に説明する時に不安にさせない話し方について

○その他・ノート活用

- ・手先、舌の動きがぎこちない子で体操を嫌がる傾向。
⇒体操の意味を知らせ、楽しさを感じるようにさせる。具体的なめあてを提示する。（長く、細く、きれいに・・・など）いくつか選べるようにして、本人が自主的に行っている気にさせる。
- ・知的に少し遅れがある子で発音はよくなったが、ひらがな、カタカナが読めないのに終了にしているのか。
⇒生活で使うもの（漢字など）は重点的に学習する。小さなことでも褒め、本人のやる気を引き出す。焦らず本人のペースに合った目標を立て、いつまでに〇〇はできるようにする、という明確な目標をつくる。

2 講師から「ことばのノートについて」

○ノートというと字を書くことが多いが、図を描いたり、その子の口や舌の写真を貼ったりしてもよい。

ノートを見て、その子の成長の過程が見えるのがよいと思う。

○よく、クラスで使っている国語のノートと同じタイプのノートを使わせることが多いが、3、4年生くらいになると自分が書きやすい国語のノートを選ばせて使うのもいい。

○字を書くのが苦手な子は、担当者が代わりに書いたりスタンプを使ったりと工夫して、本人が嫌がらないようにしたい。

ブロック名	月例会	参加人数	会場
Dブロック	1月	11人	千葉市立高浜中学校

県教研報告・今年度の反省と来年度の計画

1 県教研報告

千葉市立花見川第三小学校 教諭 川口 竜平 先生

- ・県教研発表では、事前のレポート検討会で出た意見を参考にして文章を修正し発表をした。全国教研に参加することになったことの報告があった。

2 今年度の反省と来年度の計画

4人グループに分かれて話し合い、発表をした。

① 来年度の研究内容について

- ・年間で一つのテーマに絞らずに、教材や検査法などいろいろなことを知りたい。
- ・ICTについて、最新のソフトを知り体験して生徒が使えるようにしたい。
- ・書字の苦手さなどの事例を挙げての事例研究。
- ・不登校生徒への SST について。
- ・通常学級で発達障害の特性を持つ生徒について、周囲の理解や合理的配慮を嫌がる生徒への対応。
- ・英語でつまずく生徒への対応。
- ・検査法の結果から活用する方法。
- ・巡回通級指導について。
- ・ユニバーサルデザインの事例を持ち寄り検討。
- ・「みんなの学校」の映画上映会。

② 講師の希望

- ・桜木園の柿沼宏明先生
- ・元東京学芸大学の小池敏英先生
- ・千葉リハビリテーションセンター小児科 永沢佳純先生
- ・「みんなの学校」木村泰子先生

③ 施設見学の希望

- ・生浜高校
- ・大宮高校通級指導教室
- ・千葉大学学生支援室
- ・サポート校
- ・中野学園
- ・放課後デイサービス

○以上の意見をもとに、推進委員で話し合い来年度の研究計画を立てる。また、授業研究については役員会で実施について相談する。

特別支援教育部会

**令和元年度
11月例会報告**



ブロック名	月例会	参加人数	会場
A-1	11月	29人	千葉市教育会館
内 容 : 事例検討①② 会 場 : 千葉市教育会館 講 師 : 千葉市立検見川小学校 校長 浅野 一久 先生 事例提供者 : 千葉市立高洲第三小学校 前野 美夢 先生 千葉市立さつきが丘西小学校 遠藤 万由子 先生			
1 事例提供者より ① 前野先生 検討点:「声が出ない児童が、他人とコミュニケーションをとるために有効な手立てや支援はどのようなことだろうか。」 担任や学校の支援として、発表等は台本を用意して練習したり、SSTを行ったりしている。また家でよく話すため、保護者と話し合い、共通理解を図っている。 ② 遠藤先生 検討点:「療育手帳の取得が難しい児童が今後の高校受験や就労のことを考えた際に通常学級との交流をどのように進めていくことが望ましいのか。」 より集団の中で一緒に活動したり学習したりするスキルや習慣を身に付ける必要があると考え、日々の支援を行っている。			
2 協議内容 ① ・音読の題材を会話劇に変えてみる。たまに会話文を白抜きにして、自分の言葉を入れる。 ・学校と家での様子の違いをビデオに撮ってもらい、家で話す理由を知る。 ・担任がたくさん話しかけたり、まわりの子との会話を楽しんだりして、会話の楽しさを知る。 ・好きなものの興味のあるものを話題に出す。 ② ・交流の目的を明確にする。内容の理解が難しい教科は特別支援学級で行う方が良い。 ・教科ごとに目的、ねらいを決めて交流に出すようにする。 ・教科全部ではなく、単元を選んで参加させることもある。			
3 講師指導 ① ・話す必然性をもたせる。ゲーム（たし算じゃんけん 等）を行いながら単語でも話す。 ・話してくれてありがとうの気持ちを伝えたり、たくさん褒めたりする。 ・日記をかくようにする。家の様子を伝え聞く工夫をする。 ・話さなくても笑うだけでも良い。環境作りをしながら焦らないで支援していくことが大切。 ② ・どのようなねらいで交流に行っているのかを明確にする。参加する目的をしっかりとつ。 ・交流に行くときの児童の表情もよく見ておく。 ・手帳を取得できなかった児童に対して進路をどうしていくのか考える。教師がアンテナを高くし、進路の情報を保護者に話せるようにしておくことが必要である。			
次回例会 日付	会場	内容	
1月14日(火)	千葉市立畑小学校 ※公共交通機関をご利用ください。上履きをご持参ください。	次年度県教研に向けた提案	

ブロック名	月例会	参加人数	会場
A-2	1 1 月例会	5 5 人	千葉市立新宿小学校

【授業者（茂木先生・向先生）より】

- ・外国語活動に苦手意識があったが、取り組んでみてよかった。
- ・今まで友達との関わりという点を学習に取り入れることが少なかったが、意識的に組み込んで取り組むことができた。
- ・デジタル教科書でネイティブな発音を聞いたり、繰り返し発音したりすることで、音声ややりとりになれることができた。
- ・上学年がお手本になることで、3年生の子も何も見ないで「I like banana.」と言えるようになった。

【グループ協議】（○成果△課題）

＜学習に見通しを持たせるための工夫＞

○繰り返しの学習形態にすることで、子どもたちが見通しをもって安心して学習することができていた。
英語の表現にも慣れていていた。

△ほとんどの児童が見通しをもっていたが、中には、学習の流れを掲示したり、個別に予定表を渡したりするなどの支援をしてもよかったかもしれない。

＜学習意欲・興味・関心を持たせるための工夫＞

○ICT を活用することで、児童が音声に集中することができていた。

○活動の場を変えたり、テンポよく進めたりすることで、学習に飽きずに楽しんで取り組んでいた。

○フルーツバスケット型ゲームでは、負ける児童が出ないようにしたり、「What color do you like?」を繰り返し言って発話量を確保したりするなど、工夫されていた。

○ゲームの中で表現に慣れたことで、友達へのインタビューに生かすことができていた。

△ICT を活用できていた一方で、教師の発話が少なくなっていたように感じた。

△児童はゲームに慣れていていたので、教師の役割を児童がやってもよかったのではないかな。

△インタビューする人数が全員一緒だったので、個に応じて変えてもよかったのではないかな。

＜その他＞

○児童の発音がとても素晴らしかった。日本語と英語の音声の違いに気付いていた。

○フルーツバスケットに使うカードが繰り返し使えるようになっていてよいアイディアだった。

△クラスルームイングリッシュや英語でのリアクションを増やしていけるともっとよいのではないかな。

【講師 千葉市立小中台南小学校 窪田美幸先生のご指導】

- ・関わり合いを重視し、教師が児童をリードすることができていた。担任が外国語活動を指導する良さが出ていた。
- ・聴覚から入っていくことを大切に、さらにピクチャーカードを貼っていた。聞き取れなかった児童にとって、有効な手立てだった。
- ・児童が目を見てインタビューし、リピートリアクションもすることができていた。しっかり聞いていることがよくわかる。児童同士だけでなく、参観者にもインタビューすることができ、積極性が見られた。児童がコミュニケーション活動を楽しんでいた。
- ・1時間の授業の中では、評価の観点を1つに絞るとよい。

◎授業者の茂木先生、向先生ありがとうございました。



次回例会 日付	会場校	内容
1 月 1 4 日（火）	千葉市立新宿小学校	教材・教具の紹介、教育課程

ブロック名	月例会	参加人数	会場
Bブロック	11月例会	20人	千葉市消費生活センター

内 容 : 千葉市消費生活センターの施設見学

講座「成年年齢引き下げに伴う、消費者教育の重要性について」

講師 庄司佳子 先生

【民法改定による成年年齢引き下げについての要点】

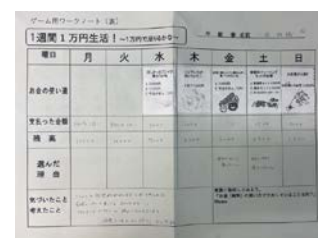
「携帯電話の契約」や「クレジットカードの作成」「ローンを組む」などのことは、特別支援教育を要する児童、生徒にとっては、特に注意を払わなければならない。そこで、義務教育期間に消費者教育を行うことで、不用意なローンを組んだり、クレジットカードを不正に利用されるなどの、将来的に起こり得る危険を回避できるようにすることが必要不可欠である。また、「契約」のタイミングとその意味を理解することも重要である。

【消費者教育体験】

① 1週間、1万円生活～1万円で足りるかな？～

方法

- ・4人グループでゲームに取り組む。
- ・日曜日の残高が0円に近い人が勝ちとなる。
- ・サイコロを転がして、表を見ながら、出た目に書いてあるカードを1枚引く。
(買うか買わないか、買うならどれにするか選ぶ)
- ・引いたカードは、その日のお金の使い道の欄に貼り、支払った金額と残高を書く。
- ・その時に気がついたことや、考えを一番下の欄に書く。
- ・一週間の途中で残高が0円になっても、ゲームは続けて良い。



② 物や金銭の使い方と買い物「筆箱を買おう」

方法

- ・筆箱を買う時、これまでどんなことを考えて買っていたか、考えさせる。
- ・「どんなことに気をつけて筆箱を選んだらよいか、考える。
- ・ワークシートで情報を整理させる。
- ・整理した情報をもとに、グループで話し合う。
- ・学習の振り返りをし、今度は「ハム」を買うとしたらどんなことに気をつけるか考えワークシートに記入させる。



【参加者の感想等】

- ・成年年齢の引き下げによって起こりうる危険性を理解することができたと同時に、消費者教育の大切さが分かった。
- ・すぐにでもクラスで実践できる授業を体験することができて、とても参考になった。

次回例会 日付	会場校	内容
1月14日(火)	千葉市立加曽利中学校	実践報告、教材紹介

ブロック名	月例会	参加人数	会場
Cブロック	11月例会	31人	千葉市立院内小学校
1 授業研究 きこえの教室 個別学習 題材名「将来への一步を踏み出そう」 授業者 渡邊 澄菜先生 講師 坂口 栄子先生（千葉県立千葉聾学校） 2 協議会 （授業者より） ・本児は、これまで難聴理解授業を繰り返し行い、自分のことだけでなく相手に合わせることや伝え方なども学んできた。これまで小学校の中で困ることや悩むことなどをうまく、解消してきた。しかし、中学校になると新しい友達や先生との関係や環境をどのようにつくっていけばいいのか考える学習を行った。 ・中学校で「本児のきこえについて周りに理解してもらう」ことは、将来の夢であるパティシエになることにつながることを学習するために「未来の地図」というキャリア教育に取り組んできた。 ・これから困ったり、悩んだりする中で、どのように自分らしい環境に整えていけるかいろいろな場面について話し合ってみた。これまでは、「大丈夫」という言葉で話し合いが深まらなかった。今回はじっくりと対話ができるように、「きこえの先輩の作成したもの」や「本児の未来の地図」をもとに、本児の言葉を受け止めながら対話をした。大勢の人が参観している中であったが、いつもより対話ができたと思う。 （参観者のグループディスカッションより） ○向き合うべき今後の課題に対して、深く考えるような学習をするにはどうしたらよいか。 ・具体的な場面を説明したり、提示したりして本児がイメージしやすくするとよい。 ・その子の思考力を考えながら、じっと待つなどの時間をとる。 ・その子の発言や考えを受け入れながら、担当者としてはさらに選択肢をひろげていくような言葉かけをしていく。 ○小学校のキャリア教育について、どのように考えればいいのか。 ・まずは自分を理解し、自分の強みは何かを知ることが大事。そしてどんな人になりたいのか、どんな仕事に就きたいのかという話し合いや対話を大事にしたい。 ○学級担任、中学校との連携について ・本児自身が、どんなところを自分の強みだと感じていて、苦手なことをどのように乗り越えていくか一緒に考えることが大事。そのことを伝えるような連携や引き継ぎをしていきたい。 3 講師より ・きこえにくさがある子にとって、「ありのままの自分でいい」と思える状態や前向きな気持ちをもてるようになることを目指してほしい。耳に特性があるけれど、「どのように生きたいのか」「どのような人になりたいのか」「どのような人生を歩みたいのか」が大事だと思う。そのために、自己を認識する学習が必要である。「自己理解」「他者理解」「障害理解」を小学校のうちから行い、中学校でも通級で続けていく必要がある。 ・どの子にも「自分の強み」を生かして生活ができるようにしていったほしい。 4 その他 連絡など ・ことばを育てる会より連絡 ・12月14日のことばの相談会について ・11月30日の吃音相談会について			
次回例会 日付	会場	内容	
1月14日（火）	千葉市立松ヶ丘小学校	事例検討、検査法研修	

ブロック名	月例会	参加人数	会場
Dブロック	11月例会	10人	千葉市立養護学校

千葉市立養護学校見学

1 千葉市立養護学校高等部の見学

- ・高等部の作業学習班とCコース教室を中心に学校見学を行った。
- ・作業班は高等部に10班ある。現在は産業現場等における実習期間中であり、学校内でも校内実習を実施している。各作業班とも一人一人の生徒に合わせて補助具の用意や安全面への配慮がなされていた。また、この期間の目標や計画表が掲示してあり見通しが持ちやすい環境だと感じた。

2 高等部Cコースの教育課程について説明

高等部Cコース主事 大貝奈央先生より

○Cコースは社会自立を目標とし、「挨拶・返事・時間を守る・約束を守る」を毎日積み重ねて、社会の一員として生活する人を育てている。

○日課は作業学習を中心に組んでいるが、Cコースの特徴として「職業」の学習を行っている。

- ・「職業」は年間計画を立て各学年に応じた学習内容を精選して取り組んでいる。
- ・各学年で企業や就労支援施設の訪問を行い、卒業後の進路先を目で見て感じ、自分を見つめ直す機会としている。
- ・「コミュニケーション」の学習を大切にしている。会社での休憩時間の過ごし方は生徒にとって難しいものである。雑談を続ける練習をグループに分かれて学習している。

○進路指導は、生徒・保護者の希望や企業のニーズを踏まえて長く働けることを目指している。

3 質疑応答

- ・作業班は生徒の希望で決めているのか。→各生徒に対して身につけてほしい力を検討し、体験をさせて決めている。1年間同じ班で活動し、3年間で他の班も経験できるように配慮している。
- ・中学校からの引き継ぎはどのようにしているか。→できるだけ教育支援計画を利用して中学校担任と行っている。
- ・生徒の夢と現実の差をどう支援しているのか。→夢は否定せずに受け止めて、日々の生活をどうしていくかを話し合っていくようにしている。
- ・「職業」で仕事のやりがいをどう教えているのか。→やりがいは分かりづらい。なぜ働くのかを何度も生徒と一緒に考えるようにしている。
- ・企業へ、生徒の合理的配慮をどう伝えているか。→仕事の精選をお願いしたり、仕事の手順を写真にとって手順表を用意し雇用してもらっている。
- ・就労後の支援はどうしているか。→卒業後3年間フォローアップをしている。進路先と家庭に年2回連絡をして、不適應がある場合は相談にのっている。
- ・会社を辞める時の支援をどのようにしているか。→辞める前に本人や会社と話し合いをする。辞めた後の道筋を本人と一緒に確認している。

次回例会 日付	会場	内容
1月14日（火）	千葉市立高浜中学校	今年度の反省と来年度の計画、県教研報告

特別支援教育部会

**令和元年度
10月例会報告**



ブロック名	月例会	参加人数	会場
A-1	10月例会	50	千葉市立幕張小学校

内 容 : 授業研究
会 場 : 千葉市立幕張小学校
講 師 : 千葉市立 検見川小学校 校長 浅野 一久 先生
授業者 : 千葉市立幕張小学校 武安博美先生 久保田鮎子先生
单元名 : 生活単元学習 「げんき交流会へ行こう」

1 授業者より

- ・げんきキャンプの昼食場所についての話し合いがメインの活動だったが、どのように声掛けをすれば、もっと活発な話し合いになったのか。
- ・活動の時間差が生まれないよう、ワークシートを3種類用意した。
- ・45分の中で、少しでも動きをつけられるよう、話し合いのときにイスの移動を行わせた。

2 協議会より

- ・掲示物が良かった。学習計画表で見通しがもてた。顔写真カードで意思表示ができた。
- ・児童と担任の関係がしっかりできていた。日頃の学級経営の成果が表れていた。
- ・導入の歌が、げんきキャンプを楽しみにする気持ちを盛り上げてよかった。
- ・ICT・・・カンドゥー、フードコート、サイゼリヤの写真をテレビ画面に映す、話し合いに戻るときには隠す等、効果的に活用していたのがよかった。
- ・しっかり意見を出し合えるよう、話し合い活動を次の時間にしてもよかった。
- ・意見が偏っている場合は、あえて教員が意見の少ない立場になり、子どもに意見を出させるとよかった。
- ・サイゼリヤ、フードコート、どちらの魅力も同じくらい出せるよう、情報を与えたり子どもの意見を引き出せたりするとよかった。

3 講師指導

- ・終始笑顔で楽しく授業が進められていた。子どもとの関係性もよくできていた。自分たちの意見をもって、自己決定する場ができていた。T1、T2の役割分担もよかった。
- ・椅子の配置は、お互いの顔がよく見えるよう弓なりにしているとよかった。
- ・折り合いをつけた児童への感謝の気持ちを、もっと示すとよかった。
- ・今後、話し合いのルールを守って話す場を設定できるとよい。リーダーの子が司会になって、話し合い活動を切り盛りできるとよい。
- ・自立に向けて、自己肯定感を育むこと、生活指導をしっかり行い安定を図ること、手帳取得ができない子ども達の進路をどう組み立てていくかが大事である。

次回例会 日付	会場	内容
11月19日(火)	千葉市教育会館306・307	事例検討会

ブロック名	月例会	参加人数	会場
A-2	10月例会	40人	千葉市立金沢小学校

【授業者（大石先生・高宮先生）より】

- ・教材文の内容にどっぷり入り込んで、自分事として考えることが難しくなってしまうため、導入部で学級一人一人の後期のめあてを確認する中に、主人公のめあても提示した。
- ・道徳本来の動作化とはねらいが違うかもしれないが、頑張ってきた跳び箱をたくさんの人に見てもらうことで、練習してできるようになった達成感を感じさせることができた。
- ・通常学級では、葛藤する気持ちに焦点を当てて考えていくことがあるが、特別支援学級では、その曖昧さが難しいため、良し悪しを明確にしてよい行動をするためにはどんなことが大事なのかを考えるようにした。

【グループ協議】（○成果△課題★質問）

＜興味関心を引くための導入の工夫（後期のめあて・パネルシアター）＞

○自作のパネルシアターが本当によくできていて、素晴らしかった。

△素晴らしい自作教材だったので、内容を盛り込みすぎず、一つ一つを丁寧に扱ってもよかったのではないかな。



＜考えるための手立て（教材文分割・映像・動作化）＞

○映像や動作化があったことで、主人公と自分を重ねて考えることができていた。

○児童の実態によっては今日のような動作化をするのが難しい学校もあるが、金沢小の児童にとってはとてもよかった。

★教材文から自分事へ戻すためにはどうすればよいのか。→身近な登場人物や話題を扱うとよい。

★今回は「あきらめない」というキーワードだったが、キーワードが児童から出てこない場合は、どのようにするのがよいのか。→児童の気づきを前提にし、近い考えの言葉が出てきたときにキーワードを提示するとよいのではないかな。



＜振り返りの工夫（体育カード・表情カード・後期のめあて）＞

○表情カードから、自分の意思を自分で選んでいた。

△終末部で、後期のめあてを達成するためにはどうすればよいのかを個々に考えるのは、量的にも時間的にも厳しかったのではないかな。もしやるのであれば、選択できるようにしたらよかったのではないかな。



★道徳的価値価値にせまっていくためにはどのような手立てが有効なのか。→全体・グループ・全体での共有など、教材に合わせてグループ構成を考えるのも一つの手立てになる。

【千葉市教育センター 指導主事 森美香先生のご指導】

- ・テンポの良い導入で、やり取りとしながら進めたことで、自分のめあてを念頭に置いて考えられていた。
- ・パネルシアターのときは前に集まるというように、場を変えることで集中が続く手立てになっていた。
- ・導入で、学級それぞれのめあての中に主人公のめあても入れたことで、スムーズに教材に入ることができた。
- ・一人一人のめあてが明確で、複数担任で共有し、連携が取れていた。
- ・学習の流れをパターン化すると、もっと見通しをもって学習することができるのではないかな。
- ・黒板の左側が教材のこと、右側が自分たちのことというように板書すると整理されてよいのではないかな。
- ・体育学習時の様子を動画で撮影し、インタビューしていたのがよかった。できたときの映像も見せてあげるとさらによかったかもしれない。

次回例会 日付	会場校	内容
11月19日	千葉市立新宿小学校	外国語活動授業実践

ブロック名	月例会	参加人数	会場
Bブロック	10月例会	30人	千城台西中学校

○研究主題「個に応じた表現力を育てるための支援の在り方」

◇特別支援教育 知的障害 Bブロック研究主題

◇千葉市立千城台西中学校研究主題 「確かな学力を育むための支援の在り方」

◇特別支援学級 美術科 学習指導案

◇単元名「自分だけのオリジナルフレームを作ろう」

◇授業者 森田 由希子 (T1) 竹内由美 (T2)

◇展開学級 1・2・3－5

◇展開場所 美術室

◇指導・助言者 千葉市立おゆみ野南小学校 校長 木村辰治先生

○本時の授業について

メタル箔の作品制作に興味をもっている生徒が多かった。最初にフレームに切った工作用紙を貼っていく作業があり、難しい作業のところは相談や確認をしながら取り組んでいた。またハサミを使うことが苦手な生徒には、スライドカッターやパンチを準備したり、教員が切る作業を支援したりした。

○生徒の人数が多い場合の各教科の授業展開について（グループ案）

- ・能力別に分けて活動する。4、5人を目安
- ・教員の人数が多いので、多くの生徒を見ることができ良い。
- ・席の配置の工夫。作業が得意な上級生を各グループに置き、下級生の作業の補助をしてもらう。

そのことで上級生は自覚を持ち、下級生は翌年を自覚して成長できる。

○生徒数が多い場合の効果的な技能教科の指導方法について（グループ案）

- ・手順表をイラストにして分かりやすくする。またビデオを使って完成形を見せてイメージさせる。
- ・ゴミ箱が各テーブルにあっても良い。
- ・作業が終わった子には報告をさせに来させ、作業が困難な子にはしっかりと教える。

○助言者から

- ・子どもにとって取り組みやすい活動と環境であり、生徒全員が落ち着いて取り組んでいた。
- ・学校の実態に応じた単元、評価にあわせた指導、授業に取り組んでいく。
- ・中学校では教科専門の先生が来て授業をしてくれることが特徴。

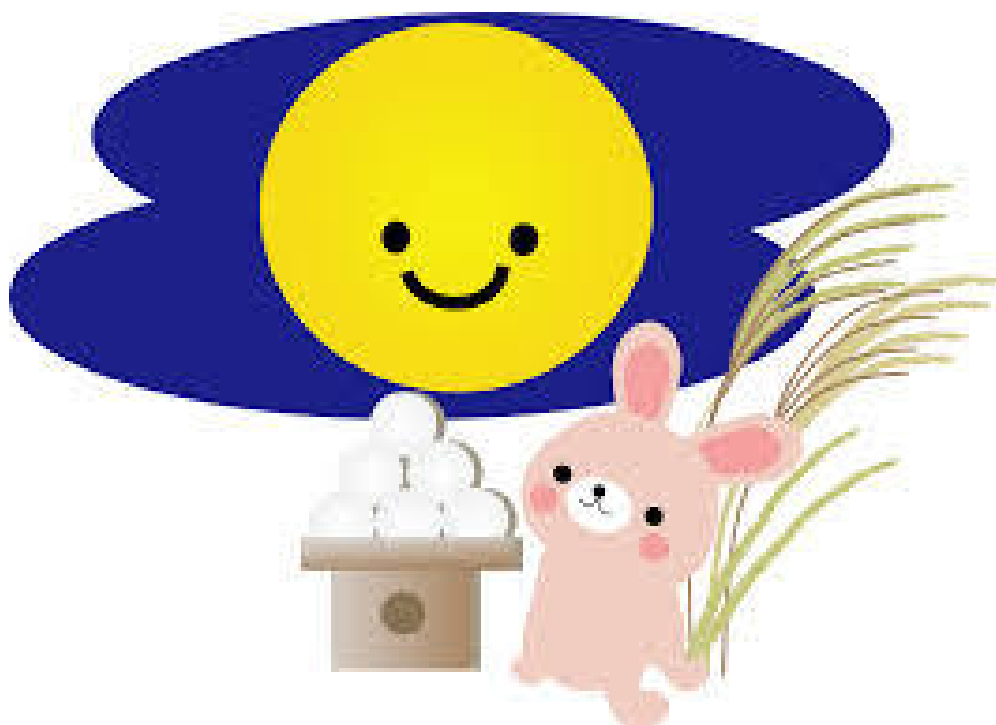
次回例会 日付	会場校	内容
11月19日（火）	千葉市消費者センター2階	消費者生活センター内見学と解説

ブロック名	月例会	参加人数	会場
Cブロック	10月例会	29人	あやめ台小学校
1 授業研究 ことばの教室 個別学習 単元名「ことばのキャンディーをあつめておかいものごっこをしよう」 ～対話からその子らしさを引き出す～ 授業者 竹尾 絵里先生 講師 黒谷まゆみ先生（千葉県立こども病院 言語聴覚士） 2 協議会 〈授業者より〉 - 対象児にとって、ことばの教室は「ほめられる場所」「達成感を得る場所」だけではなく、一対一で向き合える場所を期待している。そのため、対話が必要だと考えた。そして、「わかった」「できた」を感じ、自ら学ぶ意欲をもつために選択する経験も増やす授業を組み立てた。 - 対話を重視すると発音練習の時間が減ってしまう。 - 質問に対して、パッと答えが思いつかないとすぐに「まあまあ」「ふつう」「わかんない」と答える。そこから次へのステップ（や話題の広がり）となる返事を引き出すにはどうしたらいいのか悩んでいる。 〈参観者より〉 授業者からの質問 ○本人に選択を促す部分ではどうだったか？ ・口と舌の体操では、「何回する？」など、授業の流れや狙いに沿った条件の中での選択にする。（EX:「5回よりたくさんの方で決めてね」など指導者の意図も必要） ・小さな選択の積み重ねで、「自分が主体的にやっている」という気持ちにつながる。 ○対話についてはどうか？ ・その子の本質に迫る対話。「私は〇〇と思うのだけど、あなたはどうか？」と投げかけてみる。返事があってもなくてもいい投げかけをしてみる。 ・対話を受け止める、間が欲しい。考える間をとることも大切。 ・先生には何を言っても大丈夫という信頼が必要。 ○「まあまあ」「ふつう」という曖昧な返事について ・質問の仕方を工夫する。 「どうだった？」→「今日の発音のシの音は、うまくいったかな？」など具体的に聞く。 - 言葉を伝える、使う言葉を教えると思って質問も曖昧な言葉にしない。 感想 ・授業中、ノートをよく活用していた。評価をすぐに反映していたので、「今はどうだったか？」とすぐに自己評価をすることができていた。 ・弁別の時に使っていたついたてが、手作りでもとてもよくできていた。口元を見せる時、見せない場合と、どちらも使うことができてよい。 3 講師：千葉県立こども病院 言語聴覚士 黒谷 まゆみ先生 より ・夏前と比べると、自信をもって話をしていると感じた。自分の分からない所があると、自らわからないと伝えられていることに成長を感じた。 ・発音の自己修正ができているのがすごいと思った。（「ex 月曜日がげちゅようびになっていたから言い直した」など） ・自己弁別で、間違った音との出しわけではなく、自分が発音した音が正しい音なのか、あと少しなのか、チェックするのがいい。そして自分のこの発音ができればいいのだとはっきり分かることが大事 4 その他 連絡など ・設置校長会について ・秋季研修について ・災害時による臨休の連絡方法としての通級の子のメール登録について ・2月の県特連について			
次回例会	日付	会場校	内容
11月19日（火）		院内小学校	授業研究会

ブロック名	月例会	参加人数	会場
D ブロック	10月例会	16人	千葉市立幸町小学校
キャリア教育部会合同授業研究会 千葉市立幸町小学校 教諭 湯浅正幸先生 講師 千葉市立鶴沢小学校 校長 手川京子先生 1 授業研究 総合的な学習 単元名「だれもが『幸せな町』をつくろう」(福祉教育と関連させたキャリア教育) 総合的な学習の時間 38 時間の単元で、地域の福祉について学習した。総合的な学習の時間においての目標に加えて、キャリア教育の視点を入れた授業であった。本時は①(総合的な学習目標)介護士への質問を考えることができる。②(キャリア教育の目標)介護の苦労や努力、工夫がわかる質問を考える。をねらいとし、「人の役に立つことは介護士以外にもあてはまり、自分自身につながっていく」ことを意識させることができていた。児童からの発言「人の役に立つ」をキーワードにして、キャリア教育の視点で「やりがい」「自分自身につながっていく」に導いていた。 2 協議会 ・今回の授業は「事前学習」「体験学習」「事後学習」の中の「事前学習」であり、直接的にキャリア教育には結びつかないが、授業の中で教師がキャリア教育に導くことが大切だと思う。 ・特別支援教育から考えると、キャリア教育の4能力は子どもをみとる視点になる。また、それがその子の目標にもなると考える。教師がキャリア教育の視点を意識して教育活動をすることは大切だと思う。 ・今日の授業では、児童から出た質問を、後から①仕事内容、②仕事への思い、③自分ができることに分けたが、先に提示したほうがわかりやすいのではないかと。→全員が参加できるようにあえて自由に考えさせた。 3 講師指導 ・キャリア教育を分けると、 <u>「しっかりキャリア教育」(単元のねらい・内容がキャリア教育)</u> <u>「ちょこっとキャリア教育」(教科の内容の中に一部キャリア教育を入れる)</u> 今日の授業は「ちょこっとキャリア教育」だった。授業の中のほんの 30 秒くらいの「今日の授業が将来のこんな場面につながっていく」という教師の言葉が大事。児童の発言をキャリア教育のどの部分に<u>つながっていくか</u>を教師が伝えることで、児童に気付かせ、日々積み重ねていくこと。 ・キャリア教育の視点の持ち方として、4能力は一つ一つ独立しているわけではなく、教育活動全部がつながっている。1能力を引き上げようとするとも全体も上がる。教師がキャリア教育の視点を意識して発言し導くことを積み重ねていく。 4 連絡 11 月例会の連絡 会場：千葉市立養護学校 内容：高等部 C コース見学・教育課程について			
次回例会 日付	会場校	内容	
11月19日(火)	千葉市立養護学校	高等部 C コース見学・教育課程について	

特別支援教育部会

**令和元年度
9月例会報告**



ブロック名	月例会	参加人数	会場
A-1	9月	30名	千葉市立幕張小学校

内 容 : 指導案検討
 会 場 : 千葉市立幕張小学校
 講 師 : 千葉市立検見川小学校 校長 浅野 一久 先生
 提案者 : 千葉市立幕張小学校 武安 博美 先生
 単元名 : 生活単元学習 「げんきキャンプへ行こう！」

1 提案者より

知的障害学級5名と自閉症・情緒障害学級2名の計7名が在籍。実態の幅は大きいですが、どの児童も体験学習を好み、「げんきキャンプ」を楽しみにしている。本時はげんきキャンプの時にいつも歌っている歌を歌い、学習への意欲付けをする。昼食を食べる場所をどこにするか話し合う。生活単元学習の指導において、他教科との関連の仕方について協議してほしい。

2 協議内容

児童の実態の書き方について

- ・生活に即した実態を書いた。
- ・「単元について」で書かれているねらいに即した実態を書いた方がよい。

げんきキャンプのプログラムの決め方について

- ・プログラムの大枠は教師が決めている。昼食で何を食べるかなどを児童に決めさせている。
- ・いつも日程の掲示物を作って、校内に掲示をしている。

その他

- ・給食をバイキング形式にすることはやってみようと思った。
- ・児童同士の関わり方が楽しみであり、大切である。

3 講師指導

- ・「単元について」は児童の実態を把握し、焦点化するとよい。
- ・実態は集団の様子や交流学級での様子も入れるとよい。
- ・他教科との関連では、自閉症・情緒障害学級の児童もいるため、自立活動も入れていくとよい。

次回例会 日付	会場	内容
10月21日(月)	千葉市立幕張小学校 ※公共交通機関をご利用ください。上履きをご持参ください。	授業研究・協議会

ブロック名	月例会	参加人数	会場
A-2	9月	18名	千葉市立金沢小学校

内容：指導案検討

提案者：千葉市立金沢小学校 大石 美樹先生、高宮 冴枝子先生

単元名：道徳「あきらめない心」

◎児童の実態

- ・女子4名、男子2名。週に1時間道徳学習に取り組んでいる。
- ・友達と一緒に活動することがとても好き。
- ・できないこと、苦手なことに対して諦めてしまうことが多い。それでよいのか？
→努力することの大切さを学んでほしい。
- ・指示が通る。
- ・1年生がいるが、立ち歩くことはない。
- ・毎日日記を書いている、一日のふり返りも書くなど、書ける量は多い。自分で書く子、グレーの蛍光ペンでなぞる子がいる。
- ・絵を見ながら文を作る学習をしている。
- ・発表するのが好きで、積極的に発表する。
- ・介助員が付いている子もいるが、できるだけ離れて自分でできるようにしている。何か活動をするときにはもちろんついてもらう。
- ・学習自体、全員座って落ち着いて学習することができている。

◎教材について

- ・教科書教材を参考にして作成した自作教材である。
- ・体育の跳び箱学習の様子を映像で撮影し、映像を見返すことで、そのときの自分の気持ちを考えられるようにする。

<興味関心をひくための導入の工夫>

- ・後期のめあての提示
- ・パネルシアターにして提示する

<考えるための手立て>

- ・教材文を分割する
- ・映像の提示
- ・動作化

<振り返りの工夫>

- ・体育カードの使用
- ・表情カードによる気持ちの変化
- ・後期のめあてを使った振り返り

【協議内容】

- ・教材文の主人公の気持ちを考えてから自分の気持ちを考えるという、同じ流れで考えられるようになっていることで、自分のこととして考えやすい。
- ・体育の映像を見ることができれば、動作化をしなくてもよいのではないか。
- ・道徳科では、学習問題は立てなくてよいのか。
- ・後期のめあてで考えるのは難しいのではないか。体育のめあてにしたらどうか。



次回例会 日付	会場校	内容
10月21日(月)	千葉市立金沢小学校	道徳科授業研究・協議会

ブロック名	月例会	参加人数	会場
Bブロック	9月例会	23名	幕張西中学校
1 自己紹介			
2 ブロック別研修～事前アンケートを基に近隣校で協議			
ブロック	協議内容	意見交流	
若葉区 緑区	① 授業について ・作業学習の内容 ・自立活動、道徳の授業の進め方や実践例など ・道徳の評価について ② 手帳を持っていない生徒について	・作業には、園芸、紙漉き、アイロンビーズ、畑などを行っている。バザーに向けて、手芸、スウェーデン刺繍、ブックカバー、さしこなどの作品を作っている。 ・道徳では、スマホの書き込みやNHKライブラリーなどの活用について。	
花見川区	① 各校の教育課程の編成について ② 進路指導について	・交流とのバランスのとり方が難しい。	
中央区	① 授業について ・学力定着のための工夫 ・教科書の選び方、お薦めなど ・少数、分数の教え方 ・教科担当との連絡について ・道徳、自立活動の実施状況、内容 ・道徳の評価	・能力別に授業（国語、数学）を行い学力の定着を図っている。 ・道徳を実施しているかを聞いたが、学校生活全体として取り扱っているところが多い。 内容も難しく、評価の仕方も難しい。	
稲毛区 美浜区	① 道徳、自立活動、作業学習について ② 進路指導、職場実習について ③ 通知表について	・道徳については、学校の実態もあるが、時間割に入れている学校もあれば、生単、自立活動でその内容を取り扱っている学校もある。通知表に道徳の項目がない学校もある。 ・若手の先生の悩みで、高等特別支援学校を希望している生徒へのアドバイス。	
3 9月例会事後のアンケート			
・意見交換ができて良かった。・進路に関して共通の悩みを抱えていることがわかった。 ・台風、テスト、成績とタイミングが悪く人数が少なかったが、話し合いは参考になった。 など各学校の意見を聞く機会があって良かったという感想が聞かれました。			
1 月例会に向けてのアンケートのお願い（教材紹介）			
次回例会	日付	会場校	内容
10月21日	(月)	千城台西中学校	授業研究 「自分だけのオリジナルフレームを作ろう」

ブロック名	月例会	参加人数	会場
Cブロック	9月	26人	院内小学校
1 指導案検討会 ① 10月例会研究授業 粘膜下口蓋裂による鼻咽腔閉鎖機能不全と診断されたA児 <指導者 あやめ台小 竹尾 絵里先生より> ・本児は発音だけでなく、語彙を増やす方法や全体的な発達の遅れに対する支援など、いろいろな方面からアドバイスが欲しい。 ・ことばのノートを活用し、対話をしながら安心して取り組める場にしていきたい。 <協議会より> ・本児がめざす姿とは、言われたことをやるだけでなく、自分がやりたいことをやりたい、困っていることを困ったと言えるなど、自分の意思を伝えられるように育てていくとよい。 ・ずっと同じ教材作りもよいが、他の興味があるものに変えていってもよい。 <講師 大木戸小学校 教頭 高瀬 景子先生よりご指導> ・子供に自分のやりたいことを自分で選択できる力を付けるには、担当者も同等に選択できているか振り返ってみることも大切である。 ・その子がことばの教室にどうして通っているのか、何を望んでいるのか、発音を早く改善するのか、言葉で自分を表現していく力なのか、保護者はどう思っているのかなども把握しておく必要がある。 ・本児は、粘膜下口蓋裂であるので、「ゼ」の音の発音指導だけでなく、ブローイングなどの指導が本児に本当に合っているかなど医療機関との連携を取った方が効果的である。 ・日常的に唇が開いていることが多いので、可能であれば、くつつけられる口の体操なども取り入れられるとさらに良い。 ・対話は対等であることが大切である。聞いてあげよう、引き出してあげようではなく、自分の話も聞いてもらう姿勢も大切。 ・担当者とは本児との会話がはずむように、母親や担任にも協力をお願いする。語彙が少ない子が話を広げるために本児が興味のある広告（ちらし）などを準備してもらう、ことばのノートで担任に学校での様子を書いてもらい、話のヒントを得るなど。 ② 11月例会研究授業 両耳混合難児（小6）の難聴理解授業 <指導者 院内小 渡邊 澄菜先生より> ・本児が進学する中学校には、特別支援学級がない。中学校に進学してからのことを想定して今年「自分のなりたい職業」というテーマで理解授業をする予定であるが、中学生という多感な時期に周りの人への伝え方のポイントとなる点を教えてもらいたい。 ・自分で伝えるということ以外で何かつけておくべき力はあるのか教えていただきたい。 <協議会> ・1～6年生と発達段階に大きな開きがあるが、みんなで同じテーマで話し合いたいと思ったときに「なりたい職業」というテーマにしたが、それはどうなのか。 ・13歳のハローワークと同じような系列で「発達障害のハローワーク」という本があった。一読の価値はある。 <講師 県立聾学校 教諭 坂口 栄子先生よりご指導> ・「職業」に決めなくてもよいのではない。「自分の好きなものについて」とか「夢中になれること」というテーマでもいい。耳のことというより、自分というアイデンティティを全面に出すのはどうか。「自分とは何だろう」「どんな人になりたい」というテーマでもいいと思う。「耳」のことは離せない項目ではあるけれども、それは自分の一部の特徴であるので、耳だけに絞らなくてもいいように思う。 小さい頃から「耳」のことは学習しているし、素直に気持ちを伝えるのが苦手な年ごろでもあるので、少し斜めからの切り込みもいい。向き合ってくれないなら、斜めから向き合わせてみる。他の障害で考えて「あなたならどうする？」と尋ねるのも一つの方法。 ・クラスのみんなに伝えるならWIN-WINの関係であるべき。試行錯誤して、耳のことを伝えないという選択をするのも有りだと思う。伝える・伝えないことのそれぞれのメリット・デメリットを一緒に考えた末に本人に選ばせるのがよい。どうしようかというところに時間をかけたい。迷いながらも自分で出した答えには後悔がないように思う。自己選択・自己決定・自己責任。 ・誰に言うか？という方向性も大切。親しい人にだけ？友達だけ？クラス全体に？ ・職業で授業するなら、自分がもしこの職業についたら「聞こえない」ことの仕事上の不都合さや不便さを予想することは大切だと思う。			
次回例会	日付	会場校	内容
10月21日（月）		あやめ台小学校	授業研究会

ブロック名	月例会	参加人数	会場
Dブロック	9月	12名	養護教育センター
千葉県教育研究集会のレポート検討会 提案 花見川第三小学校 川口竜平先生 講師 養護教育センター 廣森貴恭指導主事 協議 ○設定理由について ・「自閉スペクトラム症の子どもに対して、LD等通級指導教室でのキャリア教育の取り組み」について意見 →自閉スペクトラム症でも特性が様々であるから、事例の児童に絞って考察をしたほうが良いのではないかな。 ○研究仮説について ・「キャリア教育の視点を取り入れると、自己肯定感が高まる」について意見 →キャリア教育と自己肯定感のつながりが分かりにくい。キャリア教育のどの能力が関係するかなど具体的に表記したらどうか。 ○研究内容について ・「LD等通級指導教室の自立活動の視点と、キャリア教育の視点とが重なる点が多い」についての意見 →自立活動とキャリア教育のどの部分が重なるか、また自閉スペクトラム症の子へのキャリア教育の目標をどう設定すべきか。 講師指導 ○キャリア教育と自立活動の関係について ・LD等通級指導教室の指導はキャリア教育を前面にしない。あくまで自立活動の視点で指導内容を組み、そこに必要に応じてキャリア教育の視点を入れる。 ・LD等通級指導教室の指導は通常学級での適応が目標であるから、今の時点でその子が困っていることを指導する。本人が意識を持って学習できる課題設定をする。その指導の中には将来への指導が入ってくるが、それが先行しないようにする。 ○自立活動とキャリア教育の視点が重なることについて ・LD等通級指導教室では、キャリア教育の視点を取り入れて自立活動の指導を行っている。授業の中で、キャリア教育と自立活動はそれぞれの部分で取り入れるかを意識して組み立てるとわかりやすい。 ○キャリア教育のねらいの考え方 ・対象児の年齢や発達段階に応じて目標や内容を考えて指導をしていく。 ・中学生段階になると、自分の課題を自分で理解できるようになってくる。通常学級での一斉指導では身につけることが難しいことを通級で個別に指導する。ただ、教師側の希望で指導すると本人の考えと一致しない場合があるため、自己理解が重要になる。 ・小学生段階は、今の困り感を指導するなど、いま大事にしたいことを目標にすると良い			
次回例会	日付	会場校	内容
10月21日(月)		千葉市立幸町小学校	キャリア教育部会と合同授業研究

特別支援教育部会

**令和元年度
8月例会報告**



ブロック名	月例会	参加人数	会場
	8月例会	156人	千葉市ハーモニープラザ

講演会・体験会

「車いすバスケットボールって知っていますか」



- 1 始めの言葉 (富井副理事)
- 2 挨拶 (久保木理事)
- 3 講師紹介 (小林先生)
車いすバスケットボールチーム 千葉ホークス
代表 田中 恒一 様
- 4 講演
- 5 デモンストレーション・体験会
講師 千葉ホークス 添田 智恵 様
村上 慶太 様
山口 健二 様
- 5 質疑応答
- 6 お礼の言葉 (高瀬副理事)
- 7 講師退場
- 8 終わりの言葉 (富井副理事)



【内容】

前半は、車いすバスケットボールの内容やルール等について講話をいただいた。スタンディングのバスケットボールとほとんど変わらないことや、選手の状態によって持ち点がついていること、そして車いすバスケットボールについての情報等、多くのことを聞くことができた。

後半は、選手3名の方々にも来ていただき、実際の車椅子に乗って競技の体験を行った。選手の動きを生で拝見し、その迫力と難しさ、また楽しさを実体験することでとても有意義な研修になった。



次回例会 日付	会場校	内容
9月10日(火)	A-1 千葉市立幕張小学校	A-1 指導案検討
	A-2 千葉市立金沢小学校	A-2 指導案検討
	B 千葉市立幕張西中学校	B ブロック別研修
	C 千葉市立院内小学校	C 指導案検討
	D 養護教育センター	D 県教研レポート検討

講演及び体験会

車椅子バスケットボールって知っていますか

講師：車椅子バスケットボールチーム

『千葉ホークス』 選手の皆さん

【プロフィール】

・千葉ホークスは、1969年（昭和44年）に労働災害者の訓練施設に「千葉作業所チーム」として誕生した車いすバスケットボールのチームです。

1985年（昭和60年）に活動拠点を千葉市内に移し、チーム名も「千葉ホークス」に改称しました。

現在、チームが若返り、新千葉ホークスとして活動中です。若手、ベテランが融合し、チーム力で日本選手権大会「日本一」を目標にトレーニングしています。

日時 令和元年8月20日（火）

午後2時～4時30分（受付 午後1時30分～）

会場 千葉市ハーモニープラザ イベントホール

住所 〒260-0844 千葉市中央区千葉寺町1-208

電話 043-209-8771

持ち物 特になし



※ 会場の駐車場は数に限りがありますので、なるべく公共交通機関をご利用ください。
なお、近くに青葉の森公園の駐車場（有料）がありますのでご利用ください。

特別支援教育部会

**令和元年度
6月例会報告**



ブロック名	○月例会	参加人数	会場
A-1	6月	61	千葉市立花園小学校

内 容 : 指導案を基にした授業づくり、協力校の先生方からのげんき交流会に向けての学習の資料紹介、情報交換会

会 場 : 千葉市立花園小学校

講 師 : 千葉市立 稲毛小学校 校長 吉岡 龍子 先生

提案者 : 千葉市立花園小学校 中田智子先生

単元名 : 生活単元学習 「げんき交流会へ行こう」

1 指導案をもとにした授業づくり

<提案者より>

2学級、4年生以外の計10名が在籍。異学年集団の良さが少しずつ表れてきた。6月下旬に開催されるげんき交流会への参加に関連させて、単元を設定した。本単元を通して「自立」と「自律」、「人とのかかわり」を学ばせたい。

2 協力校の先生方からのげんき交流会に向けての学習の資料紹介

協力校の先生方から、しおりづくりを通したげんき交流会のプログラムの確認、綱引きや玉入れ等活動の事前練習、切符の買い方等の学習等の紹介があった。

3 情報交換会

①げんき交流会への取り組みについて

現地に集合するか学校に集合して引率するか、保護者のかかわり方、卒業生に会えることが良い、学校行事や各学年の行事と同時進行で準備をする難しさ、交流会での力がどこでも使えるように担任が意図することが大切等

②その他

自立活動について（小集団でどのように行うか）、T1T2の動きの工夫、算数の一斉授業では活動を多く取り入れると良い、集団としての関係を育てることが大切等

4 講師指導

- ・ いろいろな学習の中で、根っことなるものは、子ども同士のかかわり合いをどうやって作っていくか。いろいろな人とかかわることが、子どもの成長につながる。
- ・ 同じ題材でも、各校によっていろいろな取り組みがある。情報交換をすることで、引き出しが増えるのは良い。
- ・ 単元計画をしっかりと出す（いつ、どこで、誰が、何を、どうするか）と、効果的な指導をすることができる。
- ・ 校外学習が、自立へのきっかけの意識を保護者に促すこともあるので、とても大切な行事である。

ブロック名	〇月例会	参加人数	会場
A-2	6月例会	37人	千葉市教育会館

【特別支援学級における道徳の指導について】 講師：千葉市教育センター 森 美香 指導主事

1 道徳教育と道徳科

○学習指導要領の改正の具体的なポイント

- ・検定教科書の導入
- ・評価の導入
- ・内容項目の追加、統合

「個性の伸長」「相互理解・寛容」「公正・公平・社会正義」「国際理解・国際親善」「よりよく生きる喜び」を小学校に追加

※いじめ問題への対応の充実や発達の段階をより一層踏まえた体系的なものに改善

- ・問題解決的な学習や体験的な学習など多様な指導法を取り入れる

2 授業づくり

○特別支援学級における指導案の作成

- ・個に応じたねらいの設定
- ・個々の実態把握
- ・興味関心を引く教材・生活に結び付いた教材
- ・手立ての模索（教材選定、教材提示、板書、体験的な活動、他教科との関連）

3 演習（自分のクラスの子を想定して考えてみる）

○「二わのことり」

- ・本時のねらい
- ・児童の実態について
- ・指導構想

○「花さき山」



【外国語活動の指導について】 講師：小中台南小 窪田 美幸 先生

○小学校外国語教育で目指すもの・心がけること

- ・小学校段階では相手意識を培っていく。
- ・全教科を教える担任が行うからこそ、子どもたちに素地を作っていける。他教科で生かすことができる。
- ・発音のことは求めない。伝えようとする姿、モデルを示す。
- ・外国語活動が充実している学校は「チーム学校」として取り組んでいる。

○基本的な授業の流れ

挨拶	
復習	○既習表現や語彙の確認、練習等を行う。
展開	○指導計画に沿って、ゴールに向けた学習活動を行う。2つくらいの活動を用意。 ○はじめにルールの確認。代表児童やALTと一緒にモデルを示す。 ○英語やジェスチャーを使う児童の姿を紹介する。
ふり回り	○友達の頑張りなどに着目している児童がいれば発表させ、互いを認め合える場面を設ける。

○簡単にできるアクティビティーの紹介

- ・既習事項を使って自己紹介
- ・感情マッチングゲーム
- ・進化じゃんけん



◎ご指導いただいた、森先生、窪田先生、ありがとうございました。

ブロック名	月例会	参加人数	会場
B ブロック	6 月例会	参加人数：37 名	会場： さつきが丘中学校
授業研究 作業学習「カレンダーで手提げ袋を作ろう」 授業者 秋葉 泰博 先生、 森 知子 先生 助言者 おゆみ野南小学校 校長 木村 辰治先生 協議会 1 授業者より 総合的な力が試される場面が多く設定できるのであろう作業学習を選んだ。さらに手提げ袋作りの初回を見てもらい、手順を覚えて、正しく作れるかを目標とした。作り方の手順を TV に映し出したり、見本をそばに置いたりして、参考にした。1 名の生徒の工程では、補助具を使用して、正確にカレンダーに折込用の線を引けてよかった。 2 参観者より 生徒 2 名に教師 2 名で手厚い支援、生徒の能力に応じた補助具、見本の提供などがあった。落ち着いた雰囲気の中で、初めて取り組んだ作業種であったが、それぞれの作業分担に集中して取り組んでいた。 などの感想があった。 3 助言者より 中学校段階では、作品をバザーなどで売るというより、単元を組んで、その前段として、今回の授業のように、お世話のなった先生方へのプレゼントなどでも良いと思う。指導案の評価では、新指導要領の三つの柱に対応した評価を心がけて欲しい。等の助言をいただいた。			

ブロック名	月例会	参加人数	会場
Cブロック	6月例会	28人	高洲第三小学校

1 事例検討

① 粘膜下口蓋裂による鼻咽腔閉鎖機能不全と診断されたA児

- ・キがチ、ケがチェ、ギがヂ、ゲがヂェに置換。チ、ツが歪音。
- ・(単語以上で)サ行がシャ行
- ・(単音節以上で)ザ行がチャ行に置換。
- ・読み書きが苦手。

〈質問〉本児は、鼻から息が抜け、発音全体が弱くなるのを防ぐために子音を強く出す発音練習をしているが、大声を出さないよう発声の回数を減らすようにして、のどの負担を軽減したほうがいいのか？

〈指導〉子音を強く発音しているのは、正しい音を意識してのことである。喉に特段負担がかかっているとは見えないので、このままでよい。

〈質問〉粘膜下口蓋裂が理由で完全に改善できない発音はあるか？

〈指導〉本児の場合は、構音操作の改善に力を入れて上達を待つとよい。

② 発達遅滞が疑われる子B児

- ・語彙発達検査 CA 6-4 VA 4-8 SS 5、AMS 3
- ・カ行がタ行、ガ行がダ行、サ行がタ行、ザ行がダ行、ツがチュ、ラ行がダ行に置換
- ・イ列鼻咽腔構音 身近な人にも会話が伝わらない。集中できる時間が短い。
- ・単語もしくは、二語文で話す。離席あり

〈質問〉正しいイにさらに近づけるための指導法について

〈指導〉・しばらく舌を出して、単語を言うまで発音は舌を出したまま練習してよいと思う。
イ+ア→ヤ が出る。シの音はイに近い

・シが言えていたので、シから伸ばしてイを導くのはどうか。

・自分の発音を客観的にみるため、初めて来た時のビデオを見せて「これだけできるようになった。」と達成感を味わわせ今後のモチベーションにつなげるのはどうか。

・しばらく舌を出して単語を言えるようになるまで発音は舌を出したまま練習した方がよいと思う。

・ことば集めも行いながら発音指導に生かせるようにしてはどうか。(語彙を増やす活動も取り入れつつ、発音指導を行う。)

2 その他 連絡等

- ・7/10にことばの研修がある。(7/22、研修はない)
- ・県特連について
- ・夏季研について
- ・市特協の研修について
- ・県特連のサマーキャンプについて
- ・特別支援学級等担当者研修会ブロック研修について
- ・ことばを育む親の会について
- ・7月のフォーラム例会について (会場：院内小)

ブロック名	月例会	参加人数	会場
D ブロック	6 月例会	2 4 名	千葉市立花見川第三小学校

授業研究会

千葉市立花見川第三小学校 LD 等通級指導教室 川口竜平先生

講師 千葉市立検見川小学校 校長 浅野一久先生

1 授業研究

LD 等通級指導教室の個別指導で参加者は別室にて映像で授業参観を行った。グループ学習の振り返りの授業であり、キャリア教育の4能力を意識して展開した。本時の目標「物事が思い通りにいかなくても前向きにとらえて、よりよく改善しようとする」ことについて児童なりの考えを表現することができていた。

2 協議会

○協議のテーマ「キャリア教育の視点からみて効果的であったか」

○グループ協議

今回の授業の場面は、キャリア教育を通して育てる基礎的・汎用的4能力のどの能力を育むものだったかについてグループ討議を行った。各グループからの発表。

・「人間関係形成・社会形成能力」

グループ活動での目標を考えあい、実践し振り返りをして「トラブルが起きないようにするにはどうすればよいか」「実際の本人の言葉や態度」「事後の振り返りで、よかったこと・改善したいこと」相手を思いやる気持ちと態度が大切なこと。

・「自己理解・自己管理能力」

グループ活動でできたことを前向きにとらえ、自分の役割や態度についてさらに改善しようとする態度が見えたこと。

・「課題対応能力」

状況と相手のかかわりによって対応の仕方が変わるので、様々な対応法を積み重ねることが大切。

・「キャリアプランニング能力」

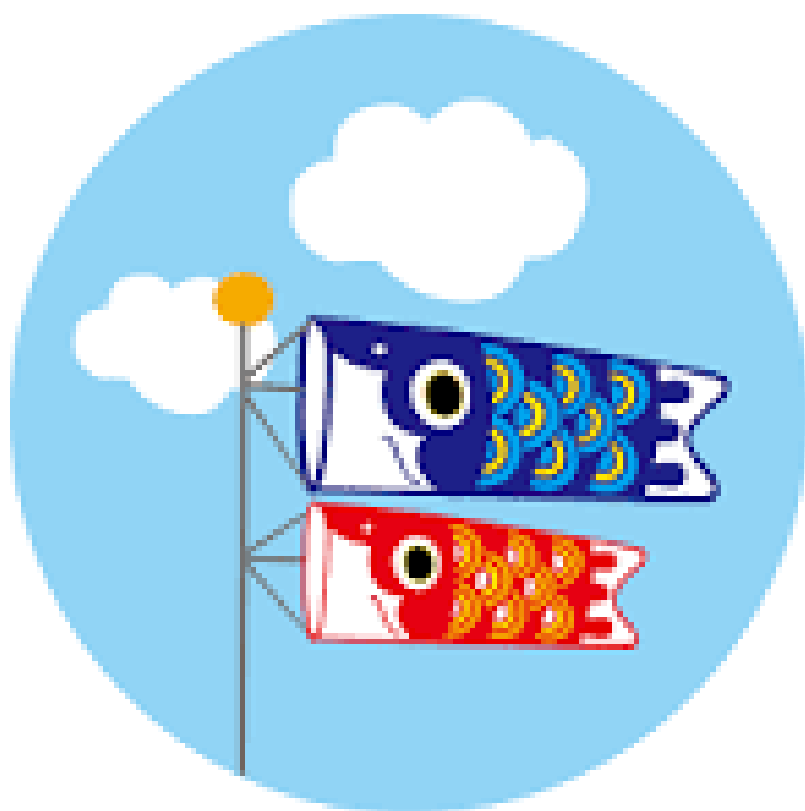
バイオリンをみんなの前で弾くことで自信を持ち自己肯定感を高めて次の課題に取り組む意欲になること。

3 講師指導

- ・「人間関係形成・社会形成能力」の基本は、一対一の関係性づくりが基本である。そこから小集団での自分の役割や態度を学び、通常学級へとつながっていく。
- ・本児は本校の児童であり、環境調整により今年度は落ち着いて過ごしている。通級で本児が周りの状況を感じてうまく行動できたときと、うまくできなかったときの違いを考え合って、よい行動を蓄積して通常学級で生かせるようにしていきたい。
- ・これからの学校では、特別な教育的支援を要する子供が多様化してくる。生徒指導・教育相談・特別支援を分けずに支援していく時代になりつつある。

特別支援教育部会

**令和元年度
5月例会報告**



ブロック名	○月例会	参加人数	会場
A-1	5月	41人	千葉市教育会館

内 容 : ブロック別活動計画

会 場 : 千葉市教育会館

1 ブロックテーマ

「児童の実態に合わせた支援・指導の工夫～楽しい授業を目指して～」

2 年間計画（案）

日時	内容	会場	講師
6月18日(火)	授業研究	花園小学校 中田智子教諭	稲毛小学校 吉岡龍子校長先生
9月10日(火)	指導案検討会 (10月例会)	幕張小学校 武安博美教諭	検見川小学校 浅野一久校長先生
10月21日(月)	授業研究	幕張小学校 武安博美教諭	検見川小学校 浅野一久校長先生
11月19日(火)	事例検討会	千葉市教育会館	検見川小学校 浅野一久校長先生
1月14日(火)	げんきキャンプ 実施内容報告	畑小学校	

3 自己紹介

学校名、特別支援教育経験年数を発表

4 「自立活動について」の情報交換（※グループ毎）

○自立活動への取り組みについて

週に一時間、午後を「自立活動」で帯どり、日々の生活の中でその都度指導等

○自立活動で取り組んでいる内容

遊びの中での人間関係形成、ソーシャルスキルトレーニング、制服の着方、リボン結び、ジッパー、電池の交換、上履き洗い、保健室のタオル洗い等

5 その他

年間計画未定部分については、決まり次第、後日お知らせします。

次回例会 日付	会場校	内容
6月18日(火)	花園小学校 ※極力公共交通機関を ご利用ください。	研究授業

ブロック名	〇月例会	参加人数	会場
A-2	5月例会	42人	千葉市教育会館

【年間活動計画について】

年間活動計画について説明し、具体的な研修内容についてはアンケートを実施しました。

【図工（絵をかく会）について】

昨年度などに取り組んだ児童の作品の写真を持ち寄り、題材や指導法について情報交換を行いました。

<テーマ>

○運動会

- ・運動会が終わってから絵をかく会に取り組む。
- ・昨年も取り組んでいるため、絵が同じようなものになってしまう。
- ・大きな紙の上に寝ころび、等身大の人の体の輪郭を描きとる。
→手や足の出る位置や長さなどをつかんでから、作品に取り組む。

○花火

- ・裏がシール、表が画用紙になっているものにローラーで様々な色を塗り、丸や四角に切って花火の形になるように貼る。
- ・糊の量の調整が難しい子に使いやすい。
- ・一度貼っても、はがして貼り直すこともでき、最後まで飽きずに取り組むことができた。
- ・100均に売っているラメ入り糊を黒の絵の具に溶かし、背景に塗る。
→キラキラした夜空を表現することができる。

<指導法など>

- ・絵を描くときに、世界観に浸るために本を活用
→おすすめの本「ミリーのすてきなぼうし」「ものすごくおおきなプリンの上で」
- ・ミューズコットンの画用紙にグレーのクレヨンで顔や手などの輪郭を描くと相性が良い。
- ・描く前に実際にその物や生き物とたくさん触れ合う。
→愛着がわいて、描きたい気持ちが高まる。

【情報交換】

今困っていることや悩んでいることなどを情報交換しました。

○運動会の練習について

- ・特別支援学級の児童の席はどこに置いているか。
- ・紅白は分けているか、一緒にしているか。
- ・2担の場合、1人が運動会の練習に付き添い、もう1人が学級に残って何をやるか。
→畑の水やり、平仮名カードを使った簡単なカルタなど、子どもだけでも取り組める物を用意している。
- ・運動会期間中は、予定の幅をもたせてゆったり過ごすことも必要。

【連絡】

- ・市教研の今までの教材の資料などが、校務システム内に保存されているので、ご活用ください。

次回例会 日付	会場	内容
6月18日（火）	千葉市教育会館	「道徳科及び外国語活動の指導」についての講義、協議会

ブロック名	月例会	参加人数	会場
Bブロック	5月	24名	千葉市教育会館

協議内容： ブロックテーマ 及び 年間計画 の決定 及び役員紹介

1 ブロックのテーマ

個々の能力に応じた表現力を育てるための支援のあり方

2 ブロック別例会

月 日 曜日	活動内容 等	会場	希望講師
6月18日 火	授業 作業学習 授業者 秋葉先生（さつきが丘中）	さつきが丘中	おゆみ野南小 木村辰治校長先生
9月10日 火	ブロック別研修 事前アンケート(6月例会で配布)を基に近隣校で協議	幕張西中	
10月21日 月	授業 授業者 森田先生(千城台西中)	千城台西中	おゆみ野南小 木村辰治校長先生
11月19日 火	講座 消費者教育について 講師 千葉市消費生活センター職員	千葉市消費生活センター	
1月14日 火	1年間のまとめ 実践や教材など報告	加曽利中	

3 役員の紹介

副推進委員長 1名

推進委員 4名

評議員 1名

次回例会 日付	会場校	内容
6月18日（火）	さつきが丘中学校	研究授業

ブロック名	月例会	参加人数	会場
Cブロック	5月例会	32人	高洲第三小学校
1 令和元年度のブロックテーマと研修計画について - ブロックテーマ 「通常の学級で生き生きと生活できる子どもの育成を目指して」 - 令和元年度の研修計画			
	活動内容	会場	助言者
6月18日（火）	・事例検討会 あやめ台小ことばの教室 竹尾 絵里先生 山王小ことばの教室 安田 恵美先生 ・共通理解事項確認	高洲第三小学校	千葉県こども病院 言語聴覚士 黒田 まゆみ先生
9月10日（火）	・指導案検討 院内小 渡邊 澄菜先生 あやめ台小 竹尾 絵里先生	院内小学校	千葉聾学校 教諭 坂口栄子先生 大木戸小 教頭 高瀬景子先生
10月21日（月）	・授業研究① あやめ台小ことばの教室 竹尾 絵里先生	あやめ台小学校	千葉県こども病院 言語聴覚士 黒田 まゆみ先生
11月19日（火）	・授業研究② 院内小 きこえの教室 渡邊 澄菜先生	院内小学校	千葉聾学校 教諭 坂口 栄子先生
1月15日（火）	・事例検討会 ・上程資料の書き方 ・検査法研修	松ヶ丘小学校	大木戸小 教頭 高瀬 景子先生
2 その他、情報交換など - ブロックテーマ、サブテーマの検討 - 今年度研修計画案の検討 6月例会の講師に尋ねたい事例の募集、6月例会に持参する書類（児童のノートのコピー） - 千葉県特別支援学校設置校校長会事務局より - 県特連より - 千葉市ことばを育てる会より			
次回例会 日付	会場校	内容	
6月18日（火）	高洲第三小学校	事例検討会	

ブロック名	月例会	参加人数	会場
Dブロック	5月	16名	千葉市教育会館

年間の研究計画作成

1 自己紹介

2 昨年度までの研究の経過

3 今年度の研究について

(1) 特別支援教育部会研究主題

「特別な教育的支援を必要とする児童・生徒の理解と指導のあり方」

(2) Dブロックのテーマ

昨年度のテーマから引き続き

「子どもの行動の捉え方とよりよい支援のあり方

～特別な支援が必要な児童・生徒のキャリア教育の視点から～」

(3) 年間計画

日 時	内 容	会 場	講師
6月18日	研究授業 花見川第三小学校 川口竜平先生	花見川第三小学校	検見川小学校 浅野一久校長先生
9月10日	県教研発表内容検討	養護教育センター	養護教育センター 廣森 貴恭指導主事
10月21日	キャリア教育部会合同研修 研究授業 幸町小学校 湯浅正幸先生	幸町小学校	鶴沢小学校 手川 京子校長先生
11月19日	施設見学 千葉市立養護学校 高等部 C コース	千葉市立養護学校	養護学校 高等部 大貝 奈央先生
1月14日	今年度のまとめ 次年度の計画	高浜中学校	

(4) 県教研発表について

(5) 活動費について

4 連絡

○次回の確認

次回例会 日付	会場校	内容
6月18日(火)	花見川第三小学校	研究授業